

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
教育に資する取組	1	特定非営利活動法人動物愛護を考える茨城県民ネットワーク	市民と学ぶ「人と動物の共生」講座(啓発事業) 1 動物虐待と法律(10月) 2 動物行動学についてのお話し(2月)	1 虐待を受けている動物をいかに助けられるのか、使える法律は何か、警察を動かし司法に訴えるためにはまず何が必要かを学ぶ。 2 犬や猫をはじめとする動物たちの行動や感情を理解し、飼い主がより良い関係を築くための知識を得る。	1 事例検討を通し速やかな保護につなげられるよう実践力を養う。 2 犬や猫の行動の理由やジェスチャーの意味を動物行動学の視点から解説し、動物たちの感情世界を理解する。	以下内容に係る講演会を実施した。 1 事例検討を通し速やかな保護につなげられるよう実践力を養う。 2 犬や猫の行動の理由やジェスチャーの意味を動物行動学の視点から解説し、動物たちの感情世界を理解する。 3アニマルウェルフェアについて学ぶ。
	2	殺処分削減のために知識と愛護精神で活動する組織(ORCK)	動物保護に関する理解促進のための教育コンテンツ開発・普及事業	動物愛護と併せて動物保護活動への理解を促進するために、事業主体のORCKが開発製作したカードゲームのARG(アニマルレスキューゲーム)を使ってワークショップを実施する。 ワークショップの実施が難しいと考えられた小学生3年次以下の生徒にも、人間と動物との関わりの歴史や動物の行動の理解を深める講座やクイズを加えてお話し会を開催する。 また中学生以上の、ワークショップが可能な世代で、より大人に近い年齢層向けには、動物愛護に関する現在の問題点や原因を見つけて、現実的な解決策を探求する問題解決技法を適用し、適正な動物保護のアイデアを導出するための講演会も開催する。 手法としてブレインストーミングを活用するが、問題を明確化して現状を把握し、目標を設定することで要因を解析し、対策を立案して実施することで、問題解決の効果を確認出来る事を体験する。 これらの取り組みは、次世代を担う若者に動物愛護に関する理解だけでなく、中長期的に広く活用可能な動物保護への理解促進のための、教育コンテンツを制作する。小学生、中学生、高校生などの年代別だけでなく、併せて英語版も制作する。	これまでの目的と併せて、開催したワークショップ後のフィードバックで得た、アイデアを適用して更なる目的の達成のために、以下の各項目を実施する。 1.ARGの改良 制作・開発したARG(アニマルレスキューゲーム)を用いて動物保護経験者を対象としたワークショップを実施し、様々な意見を抽出し、より実情にあうように改良する。特に、2024年度のワークショップで得られた意見を取り入れ、ゲームの自由度、拡張性を高める。 2. ARGワークショップ広報の強化 ARGの制作意図や教育効果を効果的に伝達するための説明パンフレットおよびORCKのホームページを制作し、広報活動を強化する。また、ワークショップにおける知識の伝達を確実に行うため、ARGに登場する保護活動等の説明動画を作成する。 3. ARGを用いたワークショップの実施 県内の各教育機関や、教育プログラムにおいて、希望に応じてワークショップを開催し、自律的に動物保護活動に関する知識を得るための手助けを行う。 4. 様々な年代の子供たちへの講演活動 様々な年代の子供たちに対して、それぞれの年代に合わせた講演活動を実施する。 (ア)小学生年次に対しては保護活動への理解を深めるための“動物クイズ”を含む講演活動(お話し会)を実施する (イ)中学校以上の年代に対しては、動物保護活動の現状と将来、ペットの飼養方法、野生動物とペットの本質的な違いなどを含む講演活動を実施する 但し、内容に関しては、学校との協議により変更には柔軟に対応する	動物愛護と動物保護活動への理解を促進するために、事業主体(ORCK)が開発製作したカードゲームの、ARG(アニマルレスキューゲーム)を使ってワークショップを実施した。 この事業の対象は18歳以下となっているが、今年度は、ワークショップ(WS)の実施が難しいと考えられる小学生の児童を対象に、就学児版を作成しWSを行った。 また3歳から5歳の未就学児には、動物の理解を深める講座とクイズ、折り方を提示しながらの折り紙体験教室を、父兄や兄弟児も一緒に参加して開催した。 ワークショップの開催前には、保育士とのプレワークショップで、仕様の確認を行った。プレワークショップの目的は、保育士に実際に体験して貰い、以下の点を、一参加者として、違和感や進行中に迷いを感じた点など、率直な指摘を受けて、改善した。 ●子どもでも分かりやすい点 ●難しすぎる点 ●配慮が必要だと感じる点 ●配慮が必要だと感じる点 児童のWSでは、動物保護の現実として「救いたくても救えない状況」や、殺処分という事実にも触れた。これは子どもたちにショックを与えるのではなく、なぜ判断が難しいのか、なぜ社会全体で考える必要があるのかを伝えるためである。但し、言葉は可愛い絵を使い適正な言葉を使用した。 ゲームは、より体験型を意識出来る方法として、ロールプレイングで行った。児童はARGセンターのボランティアスタッフの立場で考える事で、スキルや知識を身につける事が出来る。ゲームでは、正解を示すことよりも、「どう感じたか」「なぜそう考えたか」を大切にしている。アニマルウェルフェアの目的を知り、動物保護活動の難しさや達成感を仮想体験する機会になった。開催後の感想について、現在アンケートを実施中。 ARGは対象者に併せて更新している。子どもから大人、保護活動未経験者まで幅広い層への啓発を目的としている。 そのために必要な調整だけでなく、現状の更新のため、他組織とも勉強会や意見交換を行い、現実に行き起きている適正な動物保護のアイデアを導出した。 これらの取り組みは、小学生、中学生、高校生などの年代別だけでなく、大人から未就学児まで、皆と一緒に体験できるゲームを目指している。 ゲームを通じて、現実に近い保護場面を体験し、課題(ボトルネック)を理解しながら、話し合いによる判断・協働を学ばせた。 ARGは主体的・対話的で深い学びを実践する、探究型学習の一環としての利用も可能と捉えているため、学習指導要領との整合は必要である事。また、教育資材として活用を促進するために、授業時間に収まる設計で使いやすい形にしていくなり、状況に合わせて簡易型にも対応できる事を伝えていく。 来年度に向けて、ORCKの主旨に賛同してくれる組織と企画を進めていく。 今年度、8月12日に茨城県担当課へ具体的にWSの説明を実施し、開催の可能性について協議を行ったが、その後の調整継続が困難となり、当初想定していた行政での開催には至らなかった。

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
その他の取組	3	一般社団法人にゃんこの大冒険	飼い主のいない猫の不妊手術の推進活動 保護した猫の飼い主募集の活動	下妻市には人間の身勝手な理由により、捨てられて野良になり、けがで苦しみがら一人ぼっちでなくなる猫がたくさんいます。 またその野良になった猫が車に傷をつけるという被害や、ごみを荒らして散らかしてしまうことなどよく耳にします。 そこで、住民に猫に不妊手術をすることの必要性を伝えながら、TNR並びに里親探しの活動をしていきます。	月に3回のジョイフル本田での譲渡会、並び天候のよい時にWAIWAIドームでの譲渡会の開催を実施します。 譲渡会場ではパンフレットやティッシュを配ったり、さくら猫のパネルなどをおいています。	下妻市には人間の身勝手な理由により、捨てられて野良になり、けがで苦しみがら一人ぼっちでなくなる猫がたくさんいます。 またその野良になった猫が車に傷をつけるという被害や、ごみを荒らして散らかしてしまうことなどよく耳にします。 そこで、住民に猫に不妊手術をすることの必要性を伝えながら、TNR並びに里親探しの活動を行いました。 <実施内容> ・下妻市砂沼周辺の猫のTNR ・相談があった案件に対する個別のTNR ・月に3回のジョイフル本田での譲渡会の開催、つくば市役所及びトナリエでの譲渡会の開催 ・譲渡会場でのパンフレットやティッシュの配布及びさくら猫のパネル設置
	4	一般社団法人 koko wanko	迷子犬さがしサイト「kokowanko」の制作・運営 それに伴う動物愛護の啓発活動	飼い主の手から離れてしまった犬猫のケガや事故、命を落とすリスクは高く万一保護されたとしても情報の一方通行などによりスムーズに飼い主の手元に戻らないケースが多々あります。つながれていない犬は地域で咬傷事故や他の飼い犬とのトラブルの事例もあり、「迷子・逸走犬の早期解決」が犬・飼い主・地域にとって重要だと思います。 さらに、保護され収容されていく前に解決する事は殺処分ゼロへの一助になると考えており、利便性が高く、各SNSと連動した迷子犬さがしサイトを制作・運営し「迷子・逸走犬の早期解決」を目指した活動を目的としています。	「迷子犬さがしサイトkokowanko」は、迷子・逸走犬を目撃、保護した位置情報がすぐに登録でき、さがす側の飼い主との情報がお互いに一方通行にならないようにマッチング機能がついています。又、SNSとも連動していますので情報の拡大スピードも上がります。 イベントの開催やクラウドファンディングなどを通して「迷子犬さがしサイトkokowanko」の制作・運営の支援を募り、多くの方々に「迷子・逸走犬の早期解決」の重要性を訴え、動物愛護の認識を高め合いたいと考えています。	つくば市中央公園にてドッグフェスを開催。 ①愛犬と一緒に買い物やドッグランを楽しんだり愛犬家同士の交流を深めるなど、愛犬という幸せを感じるイベントとして開催。 ②9月は茨城県の「動物愛護月間」でもあることから、茨城県生活衛生課さん・茨城県動物指導センターさんのお力添えのもと「動物愛護啓発ブース」を置き、来場者の動物愛護啓発を行う。 ③kokowankoブースを置き、迷子犬の早期発見、解決がいかに大切かを掲示したい。 ④愛護団体さんによる犬・猫の譲渡会も開催。次の家族を保護犬、保護猫から考える選択肢もあるという事を知って頂く。 ●当日は事故もなく、有意義なイベントになりました。 ●ご来場者数 約1,500人
	5	放課後倶楽部殺処分ゼロの日まで茨城	放課後倶楽部殺処分ゼロの日まで茨城	犬猫の間違わない飼い方・動物虐待防止・終生飼育について広報することにより、殺処分ゼロの日を一日でも早くこちら側に手繰り寄せます。	犬猫を題材にした落語会の実施 毎週FMだいごから放送している「放課後倶楽部殺処分ゼロの日まで」に出演されたゲスト約80人の中から、今回は以前出演いただいた落語家さんを招き、犬や猫を題材にした落語会を開催することにより、会場にお越しの方や公開放送でラジオのリスナーに、殺処分ゼロ活動を広報します。 2023年4月から2025年3月まで「たかはぎFM」から毎週放送し合計103回放送しました。たかはぎFMの閉局に伴い、「FMだいご」から2025年4月から現在まで毎週放送しております。 他県ではありますが、兵庫県加古川市にある「BANBANラジオ」からも2023年10月から現在まで同一内容で放送し、放送後はYoutubeにても放送しております。	広く一般に知られ親しみやすい芸能である落語を使い、犬猫のいる生活で人間も犬猫も互いに幸せな時間を少しでも多くつくり、基本である終生飼育を地域住民の方々にご理解をいただくため、犬猫殺処分ゼロ活動を実践されている方に登壇いただき、「犬猫殺処分ゼロ」をテーマにご講話いただいた。 講話者 皆吉 靖成(みなよしやすなり)氏:放課後倶楽部山口 代表 串田 誠一(くしだせいいち)氏:参議院議員 落語 桂 右團治(かつらうだんじ)師匠:落語芸術協会真打 会場 茨城女子短期大学(那珂市)1号館3F視聴覚室 内容 講話 犬猫殺処分ゼロについて1:皆吉靖成氏 犬猫殺処分ゼロについて2:串田誠一氏 落語 猫の皿(ねこのさら)、元犬(もといぬ):桂右團治師匠

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
	6	つくばみらい市動物愛護協議会	つくばみらい市内における動物愛護意識の醸成及び野良猫対策	(1)市内で飼い主不明の猫に繁殖制限を実施する市民への支援 (2)市内で保護された飼い主不明の負傷・衰弱猫を治療してくれる市民への治療費負担軽減。 (3)市役所で保護した犬猫について、つくばみらい市犬猫里親サポーター(保護先)へ引き渡した際の初期医療費、保護活動費の負担を軽減する。 (4)保護猫の譲渡 つくばみらい市内で保護した猫について、譲渡を推進する。	(1)市内で飼い主不明の猫に繁殖制限を実施する市民に、動物愛護協議会が所有する物品を貸し出し、TNR活動を支援する。また、不妊去勢費用の一部を助成する。 (2)市内で保護された飼い主不明の負傷・衰弱猫を治療してくれた市民が、医療費を負担した場合に医療費の一部を助成。(高額医療費) (3)里親サポーター支援(初期医療費・保護活動費) 市役所が保護し、里親サポーターに引き渡された犬猫の初期医療費の一部を助成する。また、保護日数に応じて保護活動費を助成する。 (4)保護猫の譲渡 市内ボランティア団体の譲渡会を後援し、市役所が保護した猫の譲渡を推進する。譲渡会情報掲示板を公共施設に設置し、来庁者への周知を図る。 ※ただし、保護猫がいる場合に限る。	(1)市内で飼い主不明の猫に繁殖制限を実施する市民に、動物愛護協議会が所有する物品を貸し出し、TNR活動を支援した。また、不妊去勢費用の一部を助成した。 貸出回数:捕獲器17回 不妊去勢費用助成:オス1頭につき4,000円、メス1頭につき8,000円を助成。(1年間で1世帯あたり3頭まで) 助成実績:オス4,000円×1頭、メス8,000円×1頭 (2)市内で保護された飼い主不明の負傷・衰弱猫を治療してくれた市民が、医療費を負担した場合に医療費の一部を助成。(高額医療費) 該当なし (3)里親サポーター支援(初期医療費・保護活動費) 市役所が保護し、里親サポーターに引き渡された犬猫の初期医療費の一部を助成した(実費、但し上限6,000円)。また、保護日数に応じて保護活動費を助成した。(15日まで2,000円、16日以降は日割り計算130円×日数を加算、上限11,000円まで)。 助成実績:26頭 (4)保護猫の譲渡 市内ボランティア団体の譲渡会を後援し、市役所が保護した猫の譲渡を推進した。 譲渡会情報掲示板を公共施設に設置し、来庁者への周知を図った。 譲渡会開催回数:8回
	7	NPO法人 わんにゃんレスキューOHANA	犬猫の保護・譲渡・一時預かりボランティア、避妊・去勢手術、病気・ケガ等の受診・手術	犬については、まずは神栖市内の雌犬を、その後雄犬を保護し、神栖市内から野良犬・野犬がいなくなることで、猫については、積極的にTNRし、見守っていきます。 また、モデル地区を作り、地域活動を促進していくことが目的です。	犬猫の保護・譲渡・一時預かりボランティア、避妊・去勢手術、病気・ケガ等の受診・手術	犬猫の保護・譲渡・一時預かりボランティア、避妊・去勢手術、病気・ケガ等の受診・手術を実施した。

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
市町村動物愛護協議会	8	常総市動物愛護協議会	常総市内における迷い犬の保護、野良猫の不妊去勢手術、動物愛護に関する啓発活動の開催	1 動物愛護に関する啓発等の取組 市民に対し、動物を正しく飼い、動物による人への危害や周辺への迷惑を防止すること目的として啓発等の取組を実施する。 2 犬猫に対する取組 (1) 野良猫の避妊去勢手術支援 (2) 多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助 3 その他の取組 迷い犬の保護	1 動物愛護に関する啓発の取組 常総市内で開催されるイベント等において適正飼養に関する相談会を行い、動物を飼う前に必要な準備、不妊・去勢手術の必要性、終生飼養などを伝え、動物に関する様々な相談に応じる。 2 犬猫に対する取組 (1)野良猫の避妊去勢手術支援 常総市で市民から猫の保護相談があった場合に、常総市動物愛護協議会の現状では猫は保護できる現状にないため、市民にTNR活動を説明し理解してもらったうえで、常総市動物愛護協議会会員が市民と協働し、それ以上繁殖しないようTNR活動を行う。 (2)多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助 多頭飼育崩壊やネグレクトと思われる飼い主への指導及び、清掃や里親探し等の援助を行う。 3 その他の取組 常総市で市民から犬の保護相談があった場合に、内容を精査したうえで常総市動物愛護協議会会員が保護し、動物愛護協議会の活動費より初期医療(ワクチン・検便・不妊手術)を実施し、その後常総市内の動物愛護団体と連携し、譲渡会等を開催して里親探しにつなげる。	(1)動物愛護に関する啓発等の取組 市民に対し、犬猫の適正飼養に関する相談を受け付け、動物愛護に関する啓発を図った。 (2)猫に対する取組 ① 野良猫の避妊去勢手術支援 常総市で市民から猫の相談があった場合に、市民にTNR活動を説明し理解してもらったうえで、常総市動物愛護協議会会員が市民と協働しそれ以上繁殖しないようTNR活動を行った。 ② 保護猫の譲渡 令和8年3月22日までに犬猫譲渡会を14回実施。(第2・4日曜日) さらに、常総市で市民から猫の保護の相談があった場合には、常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しを実施した。 ③ 多頭飼育崩壊・ネグレクトへの指導と援助 多頭飼育崩壊やネグレクトと思われる飼い主への指導と、必要な場合には清掃や里親探し等の援助を行った。 (3)その他 ① 迷い犬の保護 常総市で市民から犬の保護相談があった場合に、内容を精査したうえで常総市動物愛護用議会会員が保護し、動物愛護用議会の活動費より初期医療(ワクチン・検便・不妊手術)を実施し、その後常総市内の動物愛護団体と連携して里親探しにつなげた。

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
	9	守谷市動物愛護協議会	守谷市犬猫支援事業	1 動物愛護に関する啓発等の取組 犬猫の終生飼養および適正飼養、飼い犬猫が逸走した場合の対処方法、マイクロチップ装着の必要性、TNR活動および地域猫活動の必要性についての啓発を目的とする。 2 犬猫に対する取組 (1)市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組 ・守谷市役所に飼い主不明として収容され、譲渡された犬猫の繁殖制限を確実に実施させ、また、サポーター保護時の手術費用負担の軽減を目的とする。 ・所有者明示のためのマイクロチップ装着の促進。 (2)市内で保護された負傷・衰弱犬猫の医療費に対する取組 守谷市内の負傷・衰弱犬猫を保護・治療する善意の市民の金銭負担を軽減する。 (3)市内で保護された犬猫の他団体への保護依頼費に対する取組 守谷市内の犬猫を保護し、他団体へ保護依頼する場合の善意の市民の金銭負担を軽減する。	1 動物愛護に関する啓発等の取組 ・動物愛護に関する啓発チラシの増刷。無料配布。 ・「守谷駅前朝市」にて啓発活動のため、出店。 2 犬猫に対する取組 (1)市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組 ・守谷市役所に収容される飼い主不明の犬および生後6か月までの仔猫は年間30頭以上におよび、7日間の収容期間内にほとんどの仔猫が譲渡される。譲渡後、不妊去勢手術費用の一部を助成(一律5,000円)することで、申請書(手術の領収書添付)により手術済みを確認する。 ・収容期限7日を超えた犬猫については、里親サポーターにより譲渡目的での保護をしている。譲渡前に保護犬猫に対して不妊去勢手術を実施する場合、里親サポーターが手術費用を負担することとなるため、不妊去勢手術費用を一部助成(一律5,000円)することで金銭的負担を軽減する。 ・マイクロチップ装着を普及させる目的で、手術の際にマイクロチップを装着した場合に2,000円の助成を新たに開始する。併せて、マイクロチップリーダーを購入する。 (2)市内で保護された負傷・衰弱犬猫の医療費に対する取組 ・市内動物病院に情報提供してもらい、飼い主不明の負傷・衰弱猫に高額医療費がかかった場合に、医療費の一部負担をする。(医療費2万円毎に5千円の助成、上限2万円) ・市役所収容犬猫について医療的措置が必要な場合、市内の動物病院に診察・治療をお願いすることがあるが市役所からの支払いは無い。そのため、医療費の一部を支払う。(年度末に予算残金から支払い金額を決定。) (3)市内で保護された犬猫の他団体への保護依頼費に対する取組 ・守谷市内の飼い主のいない犬猫を保護したものの、長期の保護が難しい場合、他団体に保護依頼することがある。その場合、引取料が2～7万円と高額な金銭負担が生じているため、保護依頼費の一部を助成する。(目安として、費用2万円毎に5千円、1頭あたりの上限は2万円。)	1)動物愛護に関する啓発等の取組 <内容> ・動物愛護に関する啓発チラシについては、不足がなかったため、増刷しなかった。 ・「守谷駅前朝市」にて啓発活動のため、毎月第1日曜日に出店した。 ・守谷市立松ヶ丘小学校にて「命の授業」を12月9日(火)に開催できた。 <実績> ・「守谷駅前朝市」出店費1年分:12,000円 ・「命の授業」講師代 10,000円(キドックス岡本琴美さん) 2)市役所から譲渡された犬猫の繁殖制限に対する取組 <内容> ・守谷市役所に収容された飼い主不明の犬および生後6か月までの仔猫が、譲渡または里親サポーターに保護された場合、不妊去勢手術費用の一部を助成(一律5,000円)した。また、手術の際にマイクロチップを装着した場合に2,000円を追加助成した。 <実績> ・25頭の申請があり、うち13頭がマイクロチップ装着した。 助成総額:151,000円(5,000円×25頭、マイクロチップ2,000円×13頭) ・マイクロチップリーダーは購入しなかった。 3)市内で保護された負傷・衰弱犬猫の医療費に対する取組 <内容> ・飼い主不明の負傷・衰弱猫に高額医療費がかかった場合に、医療費の一部負担をした。(医療費2万円毎に5千円、上限2万円の助成)さらに、特別助成として、14万円と超高額医療費に対し、1万5千円の追加助成をした。 <実績> ・4件(5頭分)の申請があった。 助成総額は、80,000円であった。 10,000円×3頭、15,000円×1頭、35,000円×1頭 4)市内で保護された犬猫の他団体への保護依頼費に対する取組 <内容> ・守谷市内の飼い主のいない犬猫を保護し、他団体に保護依頼した場合、保護依頼費の一部を助成した。(2万円ごとに5千円の助成額、上限2万円まで) <実績> ・4件(4頭分)の申請があった。 助成総額は、60,000円であった。 15,000円×4頭

区分	No.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
	10	阿見町動物愛護協議会	譲渡会事業・地域猫事業・一時預かりボランティア事業	1 動物愛護に関する啓発等の取組 町民に向けて適正飼養に関する正しい知識や動物愛護意識の醸成を図る。 2 犬猫に対する取組 (1)地域猫活動 野良猫による騒音、悪臭などの被害が多いため対策として、地域猫活動を実施している。 (2)保護犬猫の譲渡 町内で保護した猫について、譲渡を推進する。	1 動物愛護に関する啓発等の取組 集合注射、町広報、譲渡会、犬のしつけ教室等でのチラシ配布 2 犬猫に対する取組 (1)譲渡会 ・適宜開催とする。(天候や気温・譲渡対象犬猫の頭数により態度を決定する) (2)会員活動 ・獣医師 : 飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 ・町動物愛護会員: 飼い主のいない犬猫の一時保護等 (3)地域猫事業 ・飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用の助成 ・県の補助事業活用 (4)一時預かりボランティア事業 ・一時預かり費用の助成(ミルク、えさ、トイレ用砂及びペットシート)	<実績> 会員活動 ○獣医師5名 飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 ○町動物愛護会員10名 飼い主のいない犬猫の保護・一時預かり等 多頭飼養 多頭飼養対応件数 1件 手術頭数 80頭 飼い主のいない犬猫の健診・手術への協力等 犬 検便フィラリア検査件数…6件 犬 寄生虫駆除件数…5件 猫 検便・寄生虫駆除件数…62件 猫 エイズ白血病検査件数…21件 猫 3種混合ワクチン件数…36件 猫 目薬件数 …7件 その他 インターフェロン…56件 補助対象外治療件数…12件 飼い主のいない犬猫保護頭数 ○犬 3頭、猫 106頭 計109頭 内訳:犬:譲渡3 返還0指導セ0 死亡0 保護中0 猫:譲渡 26 保護中 77 保護中死亡 3 飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用の助成 内訳:猫オス 4件 猫メス3件 県の地域猫活動事業 内訳:6地区 45枚

区分	NO.	応募団体・グループ名称	事業名	事業の内容(計画)		事業実績
				<目的>	<内容>	
11		神栖市動物愛護協議会	動物愛護意識の向上及び野良犬・野良猫対策	1 動物愛護に関する啓発等の取組 ・市内の小中学生を中心に、適正飼養に関する正しい知識や動物愛護意識の向上を図る。 2 犬猫に対する取組 ・地域猫活動等、野良猫の対応・対策の普及促進 神栖市は野良猫による騒音や悪臭、ふん害などの被害が多く、対応・対策が求められている。 長期的な視点でいえば地域猫活動等が有効な手段であるが、地域住民の理解が浸透しておらず、地域猫活動そのものが否定され、事業のスムーズな展開に支障を及ぼしていることから、活動の普及促進を図り、ボランティア団体等の介入がなくとも、住民の主体的な地域猫活動を促すことで問題解決に向けた環境整備を目指す。 ・保護猫の譲渡支援 ・市内で保護した猫について、譲渡を推進する。 3 その他の取組 ・神栖市社会福祉協議会との連携体制を整え、多頭飼育の崩壊等の大きな問題の防止を図る。 神栖市において高齢者や正常な判断が取れない障がい者の多くに、むやみな餌付けや不適正飼養が散見されるため、社会福祉協議会やケースワーカーなどの支援者と連携を図り、問題発生の未然防止に努める。 ・市内における犬猫の保護数減少をさせ、「命の大切さ」と「責任ある飼育」の意識を地域に広めることを目的とした犬猫の譲渡会を実施する。 保護犬・保護猫の存在や現状を広く周知することで、市内における動物愛護の輪を広げることを目指す。	1 動物愛護に関する啓発等の取組 ・適正飼育や動物愛護の啓発チラシ等を作成し、各イベント等において配布する。また、学童保育等へ出張講座等に出向き、動物愛護促進の一環として授業や講座を実施する。 2 犬猫に対する取組 ・地域猫活動等、野良猫の対応・対策の普及促進 ①ボランティア団体などの協力のもと、出前講座の開催など理解を深める機会を提供する。 ②地域猫や不妊去勢手術等の相談窓口を設置し、柔軟で機敏な対応を行えるよう体制を整える。 ・保護猫の譲渡支援 ・市内で保護した猫の譲渡機会を提供するため、随時譲渡会を開催する。 3 その他の取組 ・愛玩動物の飼養状況の確認、飼いきれなくなった際の引き取り手の確保等、問題の未然防止を目的として、社会福祉協議会を通じて、高齢者や障がい者の支援者との定期的な情報交換の場を設け、状況に応じて、動物愛護協議会として協力を図りながら対策を講じる。 ・保護犬・保護猫の譲渡会では、動物とのふれあいを通じて譲渡を希望する来場者に対して適正な飼育環境や飼うことの責任を学び、動物愛護を考える学びの場を提供する。	① 令和7年7月に開催した、神栖市総合防災訓練においてペットのブースを設け、ペット同行避難や動物愛護について啓発活動を実施した。 ② 神栖市環境課に寄せられた犬猫に関する相談や苦情について、動物愛護協議会と連携し、地域猫活動の推進や不妊去勢手術に関する助言等を行い、適切な対応を図った。また、市で保護した犬や負傷猫については、動物愛護協議会を通じて返還や譲渡を進め、茨城県動物指導センターへの収容頭数削減に努めた。あわせて、多頭飼育等の問題についても情報共有を行い、動物遺棄や飼育崩壊の未然防止を図った。 ③ 地区回覧を活用し、市内全戸を対象に「子犬が生まれて困った場合の相談窓口」「犬の協力ボランティア募集」に関するチラシを配布した。これにより、飼い主の孤立防止や早期相談につながる体制づくりを図るとともに、地域全体で動物愛護活動を支える意識の醸成を図った。 ④ 令和7年6月に犬猫譲渡会を開催し、約250名の来場者が訪れた。本譲渡会では、保護犬・保護猫の新たな飼い主探しを行うとともに、動物愛護や終生飼養の重要性について周知啓発を実施し、収容頭数削減と適正飼養の推進に大きく寄与した。 ⑤ 令和8年2月に長寿介護課主催生涯大学講座にて環境課と合同で「人と動物が安心して暮らすまちづくり」を題材に講演を実施した。現場の現状を交え、問題解決に向けた住民・行政・ボランティアの協働を呼びかけ、適正飼養の推進と殺処分ゼロに向けた意識啓発を図った。
	12	石岡市動物愛護協議会	石岡市内の野良猫と人間との共生を目指す事業	1 動物愛護に関する啓発等の取組 石岡市内の住民に対し、人間と猫の共生について啓発を行う。 2 犬猫に対する取組 ・多頭飼育崩壊により飼育放棄されてしまった猫の保護 ・地域猫活動の推進	1 動物愛護に関する啓発の取組 啓発ポスターの作成及び配布。 2 猫に対する取組 ・2022年に発生した石岡市内の多頭飼育崩壊64匹（現在は12匹）の保護及び里親探しを行う。 ・事務所を借入れ、保護猫シェルターとして運営する。 ・飼育放棄されてしまった猫を保護しつつ、譲渡会（月1回）を開催し、里親を探す。 ・地域猫活動による去勢・避妊手術の実施及び保護	石岡市立小中学校24校及び公民館に、猫達との共生の大切さを説くための啓発ポスター掲示やチラシを配布し、啓発活動を実施した。 また、犬猫殺処分ゼロを目指すために、保護猫シェルターを借り上げ、多頭飼育崩壊現場で保護した猫達の里親が見つかるまでの飼育や保護を行っており、定期的に譲渡会の開催も行っている。